

# 仙北市議会 だより

## 主な内容

仙北市議会12月定例会	2
一般会計・特別会計 決算審査特別委員会	3
一般質問	4~12
常任委員会	13~15
用語解説・控室	16

# 12月定例会

高齢者に  
生きる歓びを！

仙北市議会議長 佐藤 峯夫

昨年の市議選の折、多くの高齢者から、長生きは考えものだ、という呟きを聞いています。こんなショックな言葉があつて良いものだろうか。生きることに、の否定にも受け取れる言葉。

これを機に多くのセミナーに出席し、

- ・ 議会が果たすべき使命と任務は
- ・ 家庭内での孤立無援
- ・ 健康・年金等の将来の不安
- ・ 薄れゆく人間（地域）社会の絆

以上3点が問題解決として重要と考えます。今後日本社会の福祉形態は専門家によると次の方向へ進むと言われています。

自助（家族の協力）	70%
共助（地域連帯感）	20%
公助（市役所）	10%

それだけに

民生・児童委員会  
社会福祉協議会

この二本柱の責任と期待は大きい。議員も決意を新たに襟を正し新年を迎えました。

# 第8回仙北市議会12月定例会

(招集日：平成22年12月2日 最終日：12月21日)

## 市長、提出補正予算：議会みとめず

### 市民サポートセンター関連費削除し可決



仙北市議会12月定例会の日程は12月2日から21日までとなった。その中で大きな出来事は「市民サポートセンター関連費435万円を削除し、予備費に移す修正案が議員から出され全会一致で可決された事である。門脇市長にとっては就任以来初めて議会から修正案が出されたこととなる。

#### 当局の提案説明

市民サポートセンターの開設は、門脇市長がマニフェストに掲げた公約

であり、国や県の形が変わっても、市民の融和と地域の資源や財産、人材を生かせる強固な仕組みが必要と提案された。

#### 修正の主な理由

- 市民サポートセンターの業務範囲やサービスの内容が市民の理解を得られるか。
- 現行組織の点検、職員意識レベル、能力の向上など必要条例の整備を優先すべきであるなど。

市長の提出予算に議会はまいったをかけた。

#### 一般会計補正予算

総額は3億4,325万円

#### 歳出の主なもの

■地域運営体活動推進費交付金 雲沢地区 500万円

○地域総合整備資金貸付金(株)日本ふるさと計画 1億2,500万円

○地域介護・福祉空間整備 既存施設スプリンクラー整備費 グループホームにスプリンクラー設置費補助(花みずき、ゆうゆう)と自動火災報知設備(ゆうゆう) 785万円

○生活保護事務費 電算化システムの整備 3,739万円

○新型インフルエンザ日本脳炎予防ワクチン接種 1,863万円

○新規需要米生産体制緊急整備事業費 米粉、飼料用米に取り組み農家1戸にコンバイン購入の1/3補助 177万円

○急傾斜危険区域区域工事費負担金 細越坂工事費の20% 380万円

○河正雄(ハ・ジョンウン)コレクション展開催費、美術品90点の運搬費 他開催期間は2月7日から3月27日まで。 336万円

#### 市政報告の主なもの

■病院長に宮川信先生が今年4月から着任

本市病院事業の管理者として宮川信先生を迎える準備が整った。

先生は信州大学医学部を卒業、地域医療の確立に医師人生をかけてこられた方で、内分泌外科を専門分野とされている。

長野県飯田市立病院院長、全国自治体病院協議会副会長、日本病院団体協議会代表者などを歴任、現在は複数の大学で後継医師の指導を行っている。今年4月から着任いただけることとなった。

#### 秋田内陸線について

平成24年までに、赤字額を2億円以内とする目標に取り組んでいるが、対前年度比で乗車人員で2万1,000人の減、収入で800万円の減と厳しい状況である。

帯の生活実態調査を施設入所や入院されている方を除き2,326世帯に配布し、2,206世帯の回答を得ている。

調査内容は介護、病気、生活費、除排雪、めんどろを見てくれる人や相談相手、毎日の食事の買い物と調理などについて。

調査結果は平成23年度予算に反映させたい。

#### 居宅介護支援事業所の移転、統合について

特別養護老人ホーム「かくのだて桜苑」が民間委譲されることに伴い、併設されている角館居宅介護支援事業所を移転する必要がある。この機会に同じ業務を行っている田沢湖居宅介護支援事務所と統合し、西木庁舎へ移転し福祉事務所及び包括支援センターとより連携をとれる体制が実現できる。

(田口喜 記)

#### 高齢者生活実態調査について

仙北市に居住する65歳以上の方だけで暮らす世



# 平成21年度 一般会計・特別会計決算審査特別委員会

一般会計決算・特別会計決算（集中管理・下水道事業・集落排水事業・浄化槽事業・国民健康保険・老人保健医療・後期高齢者医療・介護保険・生保内財産区・田沢財産区・雲沢財産区簡易水道事業）それぞれ認定される

9月2日に設置された一般会計・特別会計決算審査特別委員会は、10月13日・14日・18日の3日間で慎重な審査が行われた。主な質疑は次のとおりである。

## 一般会計歳入歳出決算認定について

**問** 市財源の根幹である市税の収入未済総額が、前年比9.6%増、特に不能欠損額も大幅に増え、大変な事態となっているので、徴収実績を上げるための対策がなされているのか。

**答** 今年度から、県と市町村とで構成する地方税滞納整理機構が立ち上がり仙北市でも職員を派遣している。現在まで679万4,000円が回収された。従来からの市単独での回収が困難なケースでは、成果を大いに期待しており、派遣職員の徴収ノウハウの習得につながるかと考えている。

**問** 不能欠損額の要因は何か。

**答** 地方税法上5年間徴収を目的とする権利の行使をしないことにより、その権利が時効により消滅する。例えば、所在不明者や滞納処分する財産、または差し押さえする財産等が無い状況、そのことを行うことにより、生活困窮に至らしめるような方々の増加によるものである。

## 保留児童解消のための対策は行っているか。

**答** 保育士は年中募集し、採用となった場合には、その都度、保留児童の解消を行っているが、現時点において、希望する保育士の数が集まらない現状である。乳児室、幼児室の面積不足についても未満児室を最小経費で拡張できないか再三協議、検討を進めている。就労支援の関係から、できる限り未満児を受け入れる体制をとりたいと考えている。

◎このほかに意見、要望等として、税の徴収実績を上げる対策として、税務課内の専門的な徴収体制の強化と課内職員の増員を検討し、併せて市民に対して納税意識を高め

るPR活動等の対策を講ずること。

生活保護政策において、自立して就労する生活保護者が一人でも増えるよう努力すること。

年々、観光客の宿泊者数が減っている状況にあることから各種催物や年代別の宿泊者数の実態調査等宿泊者の減少に歯止めをかける対策が必要である。観光協会や関係団体と協議し、更に市内の消費につながる政策に努めること等が提起された。

▽本認定については反対討論の後、採決の結果賛成多数により認定と決定する。

## 特別会計歳入歳出決算認定について

国民健康保険歳入歳出決算認定について

**問** 不能欠損額や収入未済額が多く、国保会計は大変厳しい内容である。原因と今後の対策について伺う。

**答** 前年度の医療費と比較すると、月平均で1,

000万程支出が増加している。要因は年間を通して新型インフルエンザの発生、高額医療費患者の増加や医療の高度化等である。今後の取り組みは健康で医者にかからない健康対策と国保安定化計画を策定し、その推進を図る。

一般会計からの繰り入れについては、国保加入者以外の市民の方々からの理解を得る必要があるため慎重に考えたい。

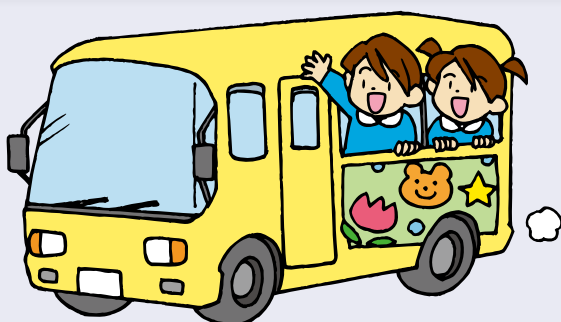
▽本認定については反対討論の後、採決の結果賛成多数により認定と決定する。

▽後期高齢者医療歳入歳出決算認定については討論採決の結果、賛成多数により認定と決定する。

▽集中管理・下水道事業集落排水事業・浄化槽事業・老人保健医療・介護保険・生保内財産区・田沢財産区・雲沢財産区・簡易水道事業の各特別会計歳入歳出決算認定については、質疑、討論の結果全会一致で認定する。

◎決算審査の過程においての各委員からの意見、要望あるいは監査委員の意見、指摘事項について、市はこれを真摯に受け止めて、来年度の予算に反映するよう総括的な要望をした。

（門脇 記）



# 一般質問



- 市民サポートセンターについて
- 物品調達・業務委託の市内発注制度について
- クラウドコンピューティングシステムの導入について
- 超高速ブロードバンドの整備について

高橋 豪 議員

市民サポートセンターについて

**質問** 議員全員協議会において、平成23年度の仙北市行政組織案で市民サポート課を新設し、そこに市民サポートセンターを設置する旨の説明があった。マニフェストに基づくものであると理解するが、設置に至る経緯及び設置理由を伺う。

**答弁** 地域固有の資源や財産、人材を十二分に活かす仕組みをスピード感を持って構築しなければいけないと考え、市民に身近な市役所として市民サポートセンターと機能を一体化したスリムな本庁舎、この行政体に再編する必要があると判断した。出来るだけ早くに対応可能なことを始めなければいけないという思いである。

**質問** 市民のたゆまぬ改革をしていくのかという視点に立つと、こうし

た事業投資より、どのよう

に地域の不安が解消され、地域の活性化が見込まれるのか具体的に示していく必要があると思うが、設置するメリットは何か。また、課題は何か。

**答弁** 地域住民が主体となつて住みよい地域を作り、地域を活性化するための市民サポートセンターを上手に活用できるかどうか、ここに大きな課題があると思う。市民サポートセンターの役割や機能は、スタートさせてから充実させていく、育てていくところに大きな特徴がある

と考える。このことが出来るれば、最大メリットは地域が存続できると言う事である。

出先機関の増設よりも現行の体制を強化することで、地域運営体のサポートやその他事務も含め、よりきめ細やかなサービス展開が可能であると思うが市長の考えを伺う。

**答弁** 市民サポートセンターの主たる業務は、地域に出向く市役所への変身過程の一つである。連絡調整だけではないとご理解いただきた

物品調達・業務委託の市内発注制度について

**質問** 仙北市物品調達・業務委託等の市内優先発注に関する条例が平成22年4月から施行されている。厳しい経済情勢が続く中、この条例を制定したことにより、制

定前と比較し、市内経済にどのような変化が現れているのか。

**答弁** 年度ごとに事業数や事業内容に違

いがあり、単純に比較が難しいという実態があるが、平成21年度と平成22年度の4月～10月までの総事業者に対する市内事業者の支払件数、支払額の割合で比較すると、条例施行後の平成22年度が平成21年度全体よりも支払件数で7.5ポイント、支払額で4.8ポイント増加となっている。

クラウドコンピューティングシステムの導入について

**質問** 法改正等によるシステム更新や年間の運用費、メンテナンス費等、ITコストが大幅に削減できるとされるクラウドコンピューティングシステムの導入を検討してはどうか。

**答弁** 市としては、クラウドコンピューティングシステムによる今回の基幹システム更新には、各種の課題や安全性の面など熟度がまだ低く、各自治体の動向を少し見極める必要があり時期尚早と判断し、今後の検討課題として捉えている。平成23年以降の更新

時に移行することが適切であると考える。

超高速ブロードバンドの整備について

**質問** 本市における超高速ブロードバンドの整備については、未だ十分であるとは言えず、今後、防災医療、福祉、教育等、様々な分野での応用を想定した場合、市民の安全・安心をより一層担保する為にも、早期に全域カバーする事が求められる。本市として今後の整備に向けた考えを伺う。

**答弁** 機会あることに通信業者に対して整備要望を行っているが、不採算地域への普及にはなかなか根ざしていただけないのが実状である。超高速ブロードバンド環境は、必要な社会資本の一つであると認識している。今後は、通信事業者と密接に連携をし、市の財政状況も十分に考慮しながら、年次計画を策定していきたいと考えている。

(田口寿 記)



現行体制の強化を



# 一般質問



○市長の政治姿勢について  
 ○田沢湖の観光振興について  
 ○国有林野開放特区による地域活性化について

門脇民夫 議員

市長の政治姿勢について

**質問** 市長の政治姿勢及び二元代表制のもと市民会議と市議会との関係について伺う。

**答弁** 今まで受動的な待ちの姿勢だった行政組織が外に出向いて、地域の中に入り込んで、地域住民と一体となつて、地域を活性化するための能動的な組織に一刻も早く変質する必要がある。そして、地域と一体になって地域を守っていくことが自分の政治指針で、その先頭に立ち、市民とともに汗をかく市長でありたい。また、市民会議は市長の諮問機関として行政課題について専門家、有識者関係者等から意見を聞き答申を得、市長がその内容を熟慮、財政状況等勘案後市議会へ提案、審議可決後、政策として実行するものだと考える。

**質問** 市民サポートセンターの目指すものは何か

**答弁** センターの職員は窓口業務と共に地域に出向いて、地域住

民と一体となつて地域の活性化を行うのが主要な業務。

田沢湖の観光振興について

**質問** 田沢湖の観光振興として湖畔に伝わる「湯頭の霊泉」等の伝説、物語を掘り起こしての振興について伺う。

**答弁** 田沢湖のPRの上でかかせないのが、日本一深い湖とともに湯頭の霊泉等の辰子姫、辰子伝説である。八郎太郎との恋愛物語や南祖坊との三湖伝説等は田沢湖と切り離すことができない。そういうものの掘り起しが大変重要で、それらを通して、田沢湖の魅力を高めることに繋がっていくものと思う。湯頭の霊泉については、水源や配管等の問題があり、汚れがひどく、溜まり水となつている田沢湖の誘客を図る上で重要な箇所であるので、水源

の調査と合わせて周辺の観光整備を行い早い時期に皆様の前に提示したい。

国有林野開放特区による地域活性化について

**質問** 国有林野開放特区による国有林の有効活用で、地域の活性化を図る考えはないか。

**答弁** 国有林の利活用の法律により規制され、それぞれ手続きが決められているが特区申請も利活用の一つの方法である。現段階では具体的な活動内容や、事業に取り



整備がまたれる「湯頭の霊泉」

組む組織作り等について検討が必要である。今後、地域運営体、各地域の団体の活動にも関連して行くので、そうした地域の意向を十分に把握することが重要であり、地域が森林と共に共生できる環境づくりや活動の推進は地域の活性化に大きな効果がある。

国有林の有効活用により、市民の所得向上を図る考えはないか。

**答弁** 国有林を活用する目的、事業効果等の形、内容が具体的に定まらないと森林管理署でも答弁に窮するようです。市民の方々の提案については、もし、改善が必要であれば改善策に市が協力し、事業推進の具体化について、所管の秋田森林管理署との協議の機会を持つので、少しの間時間が必要である。

平成21年度一般会計特別会計の決算について

**質問** 平成21年度一般会計、特別会計で

不能欠損額、多額の収入未済額が出ているが、今後の財政運営は大丈夫か。

**答弁** 厳しい財政状況を改善し、徹底した行政のスリム化を進めるため行政改革大綱、行政改革集中プランを策定し定員管理適正化、民間委託の推進等財政の健全化に取り組み、平成17年決算比で人件費4.9%、物件費等6.7%、市債で7.1%の削減を実現した。平成33年度には、地方交付税が、平成22年度比11.8%の大幅な減額が予想されているので、今後発生する財政需要をも視野に、より一層の財政の健全化と安定化に取り組み。

税負担公平の観点から、徴収専門部所を設けている自治体があるが仙北市はどうか。

**答弁** 現在ある組織を充実させるとともに、市民の皆様の納税意識の高揚を図ることが肝要と思われる。

(狐崎 記)

# 一般質問



- 保育園の待機児童対策について
- 放課後児童クラブについて
- 抱返り溪谷の観光について
- 市民サポートセンターについて

佐藤直樹議員

保育園の待機児童対策について

**質問** 保育園の待機児童を解消するため来年度の施策について伺う。

**答弁** これまで全保育園、幼稚園を回って関係者の話を伺った。これを基に問題を精査している。例えば園の面積不足について面積確保のための増築等ができないかどうか、また、職員不足についてはパート職員に依存している体質をどのように改善するのかなど多面的に協議を行っている。来年度は各園での不具合に対する小規模な改善をできるだけ行いたい。また国や県の事業に乗ることも考えたい。

**質問** 政府では認可外保育所への補助や、保育ママによるミニ保育園などへの支援も行われるとのことである。また事業所内保育など本市としても様々な支え方を検討するべきではないか。

**答弁** 国などの制度に乗る場合についても、施設の耐震基準の問題を始め多くの課題がある。

また、事業所内保育については、市内の例ではわらび座があるが、外部の子供の受入は調整が必要とのことである。その他事業所へもお願いしたい。また、社会福祉協議会と連携しての保育や、保育士を退職された方々との連携の準備を進めている。

**質問** 中川小学校と白岩小学校には放課後児童クラブが設置されていないが、児童の保護

者からの切実な要望がある。来年度の設置について伺う。

**答弁** アンケート調査の結果、白岩地区11名の方から強い要望があった。来年度の開設に向け準備を進めている。また、中川小学校については中川児童館を利用して同様の支援がなされている。



待機児童を解消し、みんなが保育園に

抱返り溪谷の観光について

**質問** 通過型の観光から体験・滞在型の観光へシフトするために

7月の豪雨による崩落については一部復旧工事を行い現在は回廊の滝までは通行できる。抱返り溪谷は大変重要な観光資源であるので、遊歩道の延伸については、安全面の課題もあるが、地元関係者と協力しながら今後も県に要望していく。

**質問** 駐車場について、市で運営している

個所と、実行委員会が運営している個所とがあり合理的でない。一本化はできないのか。

**答弁** 不具合は承知している。今後実行委員会に一本化する方向で協議を進めていきたい。

市民サポートセンターについて

**質問** 市民サポートセンターを議論するにあたり、核になる庁舎がどのような形であるかという議論がなされていない。

このこと無しでは、住民の理解は得られないと考えるがどうか。

**答弁** 利便性を損なう役所が市民の望みであるならばそれに応えるよう努力しなければならぬ。現行の分庁舎方式は非効率であるため、一体型の庁舎は必要であるが、その議論に入ると、庁舎から離れた地域の方々の要望に即時性を持つて対応することが難しくなることから、庁舎の引っ張り合いになりがちである。これを避けるべく、行政として地域が今後も継続できるような仕掛けを今から作らなければ、一体型の庁舎の議論がさらに遅れていく。こうした悪循環は何としても回避しなければならぬと考え、市民サポートセンター設置を提案した。

(高橋 記)



# 一般質問



## ○仙北市農業就業人口70歳以上が44%、これでいいのか

藤原助一 議員

**質問** 農業後継者について  
現在、専業農家は何戸あり、後継者のいる数と、いない数ほどのようになっているか。後継者を確保するため行政としての対策について伺う。

**答弁** 農業後継者の把握は難しいが、12月1日現在の認定農業者は376人で後継者の記載がある方199人となっている。平成22年2月に実施された農業就業人口は2,661人で、15歳から29歳が69人、30

代が78人、40代96人、50代が497人、60代が757人、70代以上が1,164人と高齢化が進んでいる。

後継者については、国では農業者個別所得補償制度の交付金に規模拡大加算の検討、県においても新規参入者への支援を行うこととしており、市においても担い手対策をどのように展開していくのか、農業委員会、JA等の関係団体と内容を詰めている段階にある。



楽しく学ぶミニデイサービス

**質問** 後継者の結婚対策として次代を担う若者が住みやすいまちづくりを進める考え方について伺う。

**答弁** 市では結婚サポート6名を委嘱している他、出会いの場を提供する出会い応援隊として、アロマ田沢湖とわらび座が登録されている。

アロマ田沢湖で開催された時には、10名程度が参加され、全ての方々が仙北市外の若者であった。しかし参加された若者は仙北市が大好きであり何度となく訪れており地域性もよく理解されていることから、男女の出会いの場作りは自治体同士の連携で進めて参りたい。

### 生涯教育について

神奈川県小田原

**質問** 市では職員の専門知識を市民の学習の場に活かすと共に、市政のPRも含め出前講座が評価されている。本市においても生涯学習の一つとして出前講座を始める考えはあるか。

市では職員の専門知識を市民の学習の場に活かすと共に、市政のPRも含め出前講座が評価されている。本市においても生涯学習の一つとして出前講座を始める考えはあるか。

**答弁** 平成20年度よりまちづくり出前講座として、市職員が講師となって地域の会館などで開催している。内容は『知って得する介護予防』『市民健康づくりプラン』『お母さんと子供達のために』『食育つてなかに』

『お母さんと子供達のために』『食育つてなかに』など29の講座メニューを用意し、市の事業や施策について説明や意見交換も行っている。

利用件数は平成20年度は3件、21年度は1件、今年度はわずか1件である。

今後は人気のあるメニューの設定や広報でのPR、各種団体へ利用を呼びかけていきたい。

来年度は様々な趣味、特技を持つ市職員を含め人材を広く登録し、人材バンクのようなものを紹介できる体勢を構築していきたい。

### 不登校の現状と予防対策について

**質問** 不登校の原因は、本人、家庭、学校など複合していると思われる。何事も現象が出てから

不登校の原因は、本人、家庭、学校など複合していると思われる。何事も現象が出てから

対応すると遅いので、事前のいじめや不登校予防対策について伺う。

**答弁** 本市の小中学校の不登校傾向を持つ子供達は10月現在、小学校5名、中学校14名の計19名となっている。

これを不登校出現率で表すと全国平均より低い数字となっている。

不登校の子供達は朝になると頭痛や腹痛の症状が起きるとか、勉強やいじめ、友達関係など一人一人の状況が違ってきている。

対策としては、教育相談室の設置やスクールカウンセラー、適応指導教室（さくら教室）などにより問題が複雑に絡む場合でも細心の注意を払い適切な対応をしている。

特に現在田沢湖方面ではさくら教室の分室により小学生1名が復学、中学生3名が復学へ頑張っている。

(田口喜 記)

# 一般質問



○次世代が希望の持てる角館南校の活用促進について  
○市税、国保税軽減と財産差し押さえ処分について

高久 昭二 議員

2校統合一元化案について

**質問** 「明日の県立高校を考える市民会議」を立ち上げ、苦渋の選択として統合計画を受け入れる意向を県に示した。なぜ正式な議題として議会に諮らなかつたのか。

県議会に出された南校の存続を求める陳情は、現在も継続審査中と聞いている。今後どのような働きかけをするのか。

**答弁** 市議会で特別委員会が設置され、その報告書では、市側が県の施設だとして踏み込むことをしなかつた。また将来、市にとって高等教育をいかに維持するのかの2点を指摘されたことを認識している。

そこで2校の建物を活用しながら、統合校のビジョンを市として一定の見解を示してお願いしたものである。

県の6次計画の素案に対する反映力を考えた場合、これ以上先送り出来ない時間的な制約があり、皆様には不信任を抱

かせたと思っているが理解してほしい。

今後は、実現に向けて強く県に働きかけていきたい。

角館南高校の活用計画について

**質問** 角館高校に統合一元化を図る中で、南校は定時制過程、大曲養護学校の小中部分校としても、多くの空き教室が出る。

多様なコースの設定を考へ、明るい見通しが出る教育行政を進めることが、私共に課された責務である。今後、議会と協議を重ねていく考えは

ないのか。

**答弁** 県の6次総合整備計画の案では、定時制過程で昼夜、各一学級35人程度、生徒の多様な学習ニーズや、進路希望に対応できる幅広い教育課程を編制し、語学系やビジネス系の選択科目の充実を図ることや、各種資格取得等を重視した教育活動を展開するとしている。

また両校による基本構想の作成に着手するなど、早期の高校統合に向けた準備を進めると明記している。このことは8月に県及び、県教育委員会に要望したことが強く



活用計画について議論された角館南高校

反映した内容と認識している。

今後は実現できるような活発な活動が必要であり、議会のご支援願いたい。

納めやすい市税・国保税軽減について

**質問** 農家は米価の大幅な下落、不作によって厳しい状況に追い込まれている。その結果地域経済にも悪影響が出始め、税収に大きく跳ね返ってくる懸念がある。

市として減免制度のPR、分割納付の指導などはすぐやるべきだ。

**答弁** 税は地方自治の基本であり、標準税率を尊重し、自主財源を確保する上で最も基本的な論拠と考える。安易に税を軽減することは、市民サービスにも深刻な影響が出る。

国保税の軽減については、財政調整基金を取りくずして、財政収支の均衡を図って来たが、財政調整基金も枯渇した。

今後の国保財政を補うことが困難な状況になったことから、医療費の縮

減につながる施策の展開と、一般会計からの基準外繰入れ等も視野に入れた計画も考えたい。

分割納付などの納税に関する相談は周知しているつもりだが、少しでも税金を納めやすい環境づくりに努めたい。

財産差し押さえ処分について

**質問** 平成21年度は、112件で658万円の差し押さえがある。

給与に係る債権については25%の差し押さえが原則だが、今年も65%の差し押さえ処分が執行された。即時、預貯金の解除を行うべきと思うがどうか。

**答弁** 21年度は税全体で約4,390万円、国保税では約3,488万円の不納欠損である。

給料の差し押さえは、支払う会社から差し押さえをお願いするもので、預金になったものは預金として取り扱うものと解釈している。従って給与の差し押さえはしていない。

(安藤 記)



# 一般質問



○少子化、高齢化対策について、その後の対応は  
○機構改革と人事異動は慎重に行うべきである  
経費のムダはないのか

稲田 修 議員

**質問** 少子化対策・高齢化対策に向かうとき一年たりとも待つことはできない。高齢者生活実態調査を行っているが本年は調査だけできめ細かな対応策はないのか。

**答弁** 少子化対策という問題は1市町村では完結できるものではないが最初に所得を確保する、結婚を支援する、ここで暮らして家庭をもつ、生まれてくる子どもたちを支援するという各ステージがあるが男女の出会いの場については秋田結婚支援センター・結婚サポーターや各企業、団体とも連絡を密にし支援していく。

高齢化対策については調査結果を今、政策の立案に活用し、23年度予算にできるだけ反映したい。

各地域運営体で除雪対策の活動も計画されているし、市としてもきめ細かな除排雪対策をしていく。

それ以外の問題点も提起されていて政策の展開をしようとしている状況

である。

**質問** 田沢湖病院は医師3名で拘束時間も長く医療従事者の献身的に頑張っていたのに現実を見ると早期に救急再開を求めるとは無理かもしれないが、田沢湖地域の現状の中では質問をしなければならぬ。「負担の軽減や救急再開・医師確保に向けた市長の足跡」どういう努力をされたのか伺いたい

**答弁** 就任以来、医師、看護師の確保を市政の一番の課題として最大の努力をしてきた。今後、医療局を設置し、医師、看護師の確保、経営の一元化によるコスト削減、サービスの向上を行いながら、「医師に、地域医療を守る、救急を再開しよう」と思っていただけの環境作りを進めていきたい。

新年度から広域市町村組合田沢湖消防分署に救急救命士と高規格救急車を配備し、署員5名増員頂くことになり長距離搬送に備えが厚くなる。

**質問** 機構改革や人事異動が煩雑に行わ

れているがこれまでの反省点は何だったのか。今回の6部21課37機構の思いは何なのか。慎重に処すべきである。経費的には幾らかかるのか無駄はないのか。地域センターの強化と職員の意識改革が必要ではないか。

**答弁** これからの仙北市のまちづくりを進める上で、政策、施策の実現、さまざまな課題、しかも緊急に解決しなければならぬ課題に、効果的に対応するために機構改革を行っている。関係部署等と協議し、行政組織の在り方については随時見直しを行いたい。

本年4月に、総務部、観光商工部、農林部を中心に機構改革を行った。それと一体をなすもので23年4月に市民福祉部、教育委員会事務局を中心に行いたい。

市民福祉部を市民生活部、福祉保健部に再編したい。

教育委員会に学校教育の資質向上のため学校指導課を新設したい。

医療局は仙北組合総合病院の移転改築を見据え

ながら市立角館総合病院の早期改築（26年10月想定）のアクションへの着手や病院事業管理者が着任と同時に円滑な業務の執行ができるよう年明けにも設置したい

年度途中の人事異動については健康上の問題、民間への業務委託、JAへの派遣交代等、年度途中で業務体系の変更に対応する為行ってきた。異動については職員に事前説明し実施してきている。

経費的には新年度予算の策定で見えてくると思うが国や県の異動と違いあまりないのではないかと持って再編しろというのは決して欠かすことができないと思っている。

意識改革は職員の先頭に立ち一生懸命進めていく。

**質問** 田沢湖マラソンを全国屈指の日本のマラソンに育てていきたい。市長の意欲を伺いたい

**答弁** 田沢湖マラソンの参加者は年々増加している。特に20kmは200名ほど増加した。

運営についても一昨年から中間ラップをとるなど最新のシステムを採用している。市民ボランティアも1,200名位の皆様に協力頂いている。

さらに充実させていくために移動交通システムの確立、市民総参加のボランティアによる大会、駐車場とか各施設についての充実など考えられるが問題解決に向け取り組んでいきたい

（荒木田 記）



現在活動中の地域運営体

# 一般質問



- マイカー乗入れ規制は
- 山開きに合わせたトイレ使用開始を
- クニマス史料館に
- マニフェスト総合計画の位置づけは

田口喜義 議員

マイカー乗入れ規制

質問 駒ヶ岳8合目の

駐車場はシーズンになると朝5時半には満車になる。

マイカーの事故やトラブルも多いと聞いている。

ここの標高3,000m級の山でなければ見られない高山植物、駒草などが間近に見られる自然山であるが、高山植物の盗採が後を絶たない。

盗採する人の多くはマイカーで来ている登山者ではないかと言われている。これらを踏まえ、24時間のマイカー乗り入れ規制が必要ではないか。

また、市独自の監視員を増やす等の対策も必要と考えるがどうか。

答弁 盗採防止にあたっては関係機関

ともども大変苦慮している状況にある。

市では、環境省が実施しているパトロールを強化する要望を重ねている。

マイカー規制については国、県等関係機関で構

成している協議会で、24時間規制が話題に上がったことが数度ある。引き続き検討していきたい。

山開きに合わせたトイレ使用開始を

質問 駒ヶ岳の8合目

から阿弥陀池まで1時間程度の時間がかかるためトイレタイムが必要になる。

阿弥陀池小屋トイレは毎年凍結などのトラブルにより使用開始が遅れているが山開きに合わせて水洗トイレの使用開始は出来ないか。

また、簡易トイレの使用を登山者に促す方法もあると思うがどうか。

答弁 環境状況が厳しい山開きに合わせた使用はかなり難しいと考える。汲み取り式トイレの使用を呼びかけていきたい。

提案も含め全面的に検討していきたい。

火山活動の安全対策は

質問 駒ヶ岳は現在火山活動による地熱

の変動が見られる。専門的にみても火山のメカニズムは解明されておらず

平時からの観測等が大事とされている。今後、火山活動が活発になった場合の安全対策について伺う。

答弁 危険度を推測する上で重要視されるのが火山性ガスと言われているので計測機材を

購入したい。火山活動の周期は概ね40年と言われており、最も警戒する年である。関係機関と連絡を取り的確な情報発信に努める。

クニマス史料館に質問 田沢湖史料館は2階のみの展示となっており多くの史料を見せることが出来ない。本来の姿として充実を図るべきではないか。

また、クニマスの標本が国の登録文化財の原簿に登録されており史料館のメインになっていることから名称を「田沢湖クニマス史料館」に改めることは出来ないか。

さらに、世界で2箇所ではない玉川温泉北投石の展示も図るべきではないか。

質問 史料館充実について

質問 史料館充実については多くの意見を頂きたい。クニマス史料館については個人的に賛成できるが、合わせて田沢湖の歴史的背景等も学習できる仕組みが必要と考える。

史料館が整備されれば北投石は一級品の展示物であると考えている。

マニフェストと総合計画の位置付けは

質問 18年に新市建設

計画をもとに仙北市総合計画を策定している。

市長は就任以来、マニ

フェストを確実に取り組むことを随時報告しているが、進め方と総合計画との位置づけと実施について伺いたい。

答弁 計画の中には尊重する視点が数多くある。マニフェストは短期的な町づくりのシナリオとして策定した思いがあり、計画の目指す方向に包含していると認識している。計画の見直しを今行う検討はしていないがローリング方式により毎年度見直しをしていく。

(小林 記)



70年ぶりに山梨県西湖で見つかったクニマス



# 一般質問



## ○農林業問題について ○仙北市野球場について

黒沢龍己議員

農業所得の向上と具  
体策について

質問 2010年度の

仙北市の農業を振  
り返ってみると、まさに  
トリプルパンチだった。

米価の大幅な下落、そ  
して天候不順による品質  
の低下、一等米比率は田  
沢湖地区は89%西木地区  
80%角館地区においては  
46・2%と半分以上が二  
等米である。そして三つ  
目は収量の減収、秋田県  
の作況指数は93%さらに  
7、8月の集中豪雨と、  
仙北市の農家にとっては  
大変な一年であった。  
市長のマニフェストに  
ある仙北市の所得を4年  
間で10%アップする中で

農業所得の向上について  
具体的な施策について伺  
う。

答弁 行政の果たすべ  
き役割は大変大き  
いと考えている。総合産  
業研究所を中心に流通、  
販売の確保であったり、  
地場産品を活用した加工  
品の開発をスピードアッ  
プして取り組んでいく、  
そして1次、2次加工、  
6次加工ができる仙北市  
を目指していきたいと考  
えている。

販路の拡大について  
は、上板橋、神奈川県大  
和市のとれたて村に続い  
て、都内で2店舗を新た  
に開設予定である。



農業所得の向上になるか「麺恋こまち」

麺恋こまちの販売状  
況と今後の見通しは

質問 麺恋こまち、米

外部へ加工依頼してい  
る。仙北市の農家にとつ  
て本場にプラスになって  
いるとは思えないが販売  
状況はどうかになっている  
か。

答弁 麺恋こまちは、

市内の第三セク  
ター中心に営業販売を  
行っている。7月から10  
月までの夏麺の販売実績  
は2、100食である。  
12月以降暖かな冬麺に切  
り替えて販売している。  
今後は取扱店の拡大を  
図っていきたい。米の真  
空パックは7月に製造し  
た21年産の真空パックが  
20万円程度、22年産新米  
が11月末で13万円の販売  
実績で現在12店舗で販売  
している。

質問 今年度から始

まった戸別所得補  
償制度に6月30日までに  
申請がなくて補助金が受  
けられない方が46名いる  
が市としてなんとか救済  
できないか。

答弁 戸別所得補償の  
米の補償部分につ

いては、国からの直接支  
払いなので市で補填する  
のは問題が生じると考え  
ている。その方々がどう  
いう内容で漏れている  
か、今中身を調べている、  
今後何かできるか精査し  
たいと思っている。

質問 カシノナガキク

イ虫によるナラ枯  
れが発生している。秋田  
県では6市1村が被害を  
受けている。仙北市の観  
光にも大きな影響を及ぼ  
す可能性があると思うが  
市としてどう対応してい  
くのか。

答弁 県では、仙北地

域振興局に、仙北  
地域森林病害虫等防除連  
絡協議会を19年2月に設  
置し森林病害虫に対し対  
策を講じることになって  
いる。

仙北市では、田沢湖畔、  
古城山のコナラ、岩橋家  
のカシワ、吉田のカシワ  
など7箇所が守るべきナ  
ラ林としてその監視を強  
化している。これまでナ  
ラ枯れの被害報告はない  
が、市民の方々でも、ナ  
ラ枯れではないかと思わ  
れる林、木があったら連  
絡してほしい。

仙北市野球場について  
仙北市には2つ

質問 の公認野球場があ

る。田沢湖球場は昭和54  
年に完成して現在32年を  
経過している。コンク  
リートが劣化して非常に  
危険な状態である。早期  
改修が必要と思うが市と  
して具体的な計画がある  
のか伺う。

答弁 補修等の改善を

しながら使用して  
きたが早急な対応が必要  
だと思っている。具体的  
には、23年度に設計を作  
成、24年、25年の2カ年  
で社会資本整備総合交付  
金事業で改修を進めたい  
と思っている。

(佐藤直 記)



半分以上が2等米の角館地区

# 一般質問



## ○地元が潤う観光形態の工夫を ○商工業にもう少し行政の援助を

阿部則比古 議員

**質問** 地元が潤う観光形態の工夫を

いくら観光客を誘客したところで角館の今の状態では到底、地元がある程度潤うような状態ではない。本市は国道46号、105号が交差する交通の要衝であり、良い立地に道の駅を誘致できれば、通行する方々や地産地消、観光客の消費で年間売上高10億円程度も可能ではないか。

**答弁** 市としてもこれまで数度検討した経緯がある。民間の類似施設もあり喫緊の必要性が弱いと判断している。一方、農産物の直売や、食材提供、供給などに相当額の需要が期待できると考えられる。郊外に大型駐車場や休憩施設が出来ることによる観光客の動態の変化や、観光形態が団体から個人へと移行している中で、大型施設の設置が良いのか、あるいは既存の民間商業施設への支援が有効なのか多面的な検討が必要と思う。ご指摘の検討はさらに進めていきたい。

武家屋敷を訪れる観光客は、古色蒼然としたあの雰囲気身を置く、言わば現在とはかけ離れた異文化体験をするために来ている。そうした意味で、これまで武家屋敷通りに、新たな商業施設の設置を認めてこなかったのは正しかったと思うが、逆に横町や中町の商店街を江戸時代の小間物屋やそば屋や旅籠などのような雰囲気のある商人町にしたらどうか。そのために補助金を出してでも、ある程度時代考証に耐えるモデル店舗を展開したら角館にもっと興行きが出て、リピート化にも繋がると思うが。

**質問** 武家屋敷を訪れる観光客は、古色蒼然としたあの雰囲気身を置く、言わば現在とはかけ離れた異文化体験をするために来ている。

そうした意味で、これまで武家屋敷通りに、新たな商業施設の設置を認めてこなかったのは正しかったと思うが、逆に横町や中町の商店街を江戸時代の小間物屋やそば屋や旅籠などのような雰囲気のある商人町にしたらどうか。そのために補助金を出してでも、ある程度時代考証に耐えるモデル店舗を展開したら角館にもっと興行きが出て、リピート化にも繋がると思うが。

心浮き立つ提案と思う。本市は平成21年10月1日に景観法に基づき景観行政団体にとなり、独自の景観形成のため市民、業者、行政が一体となって魅力ある景観づくりに取り組める環境が整った。商店街の皆様ご理解や自発的な行動、そして大きな財政負担も予想されるので、これから商店街の皆様

**答弁** 心浮き立つ提案と思う。本市は平成21年10月1日に景観法に基づき景観行政団体にとなり、独自の景観形成のため市民、業者、行政が一体となって魅力ある景観づくりに取り組める環境が整った。商店街の皆様ご理解や自発的な行動、そして大きな財政負担も予想されるので、これから商店街の皆様

論も大いに喚起しながら、観光客の皆様を訪れてよかった、と喜んでいただける町づくりを推進していきたい。

**質問** 商工業に行政の援助を

市長に商工会から要望書を手渡しているが、商工会法は中途で改正され、地域の一般の福祉に資する事業も商工会法に組み込まれている。つまり一般行政の一翼を担っていることであり、指導団体としては年間8,000件の経営指導や記帳指導をしている。市のイベント等にも協力をしており、今年から桜由来のイブリガッコの開発に様々な仕掛けをしており、地場産の野菜を使用したピアシーリーズの開発にも取り組んでいる。角館雛めぐり、或いは内陸線観光アテンド事業、高校生の地元就職開拓の求人コーディネート事業や、市の付託を受けた「山の楽市」などの事業もやっている。商工会への補助金は、その背景には多くの市内

商工業者への補助金でもあるわけだが、資金的に厳しい状況にあり、市からの補助金をすぐに全県の平均レベルへと近づく様に考えて頂きたい。

**答弁** ご指摘の様に補助金の額も県平均より低いレベルであり、十分な予算配分をすべきとのご指摘だが、市の財政も危

機的な状況であり、その中で基本として運営補助を抑制し、事業費補助金を重視したいと考えている。要望をきちんと受け止め、次年度予算に反映させたいと考える。ご理解をお願いしたい。

(門脇 記)



地元が潤う観光形態の工夫を





# 総務常任委員会

当委員会に本会議において付託された議案は3件である。

## ■仙北市一般会計補正予算(第9号)

今回の補正予算には、市長がマニフェストに掲げている「市民サポートセンター」に係わる予算が計上され、この件に関する質疑、意見等が集中した。主なものは次の4点に要約される。

一、地域のサークル活動や同好会が減少し、地域の繋がりが希薄になっていく昨今から、サポートセンターの役割には期待している。  
二、サポートセンター設置のコンセプトには賛同できるが、市民から頼られる組織とするためには、何よりも先に職員の見識レベルを向上させることが不可欠であり、拙速すぎるのではないか。  
三、市長はマニフェストを何が何でも実現させなければならぬという重

圧感からかも知れないが、行動に焦りを感じる。必ずしも政治家の考え方を市民は求めていないのではないか。

四、限界集落とも受け取られる地域が増加しつつある中で、サポートセンター設置の前に、他にやらなければならない事があるのではないか。各課職員との十分な検討が必要であり、慎重さに欠けるのではないか。

これに対して当局からは、市民サポートセンターの必要性等について次のような答弁があった。

市民サポートセンターは、地域の存続や生き残りを懸け、受動的な組織から能動的へと転換させるための組織として設置するものである。

地域に根付き、市民から頼られる組織として成熟するためには数年の間が必要であり、そのためには、今後の職員の減少問題も考慮しながら、

機能一体型庁舎を整備する前に、どうしてもこの組織を確立させたいと考える。

高齢者実態調査のアンケート結果からも、身近なサービス、地域の見回り等の必要性が垣間見え、地域の職員という市民の立場で考え、行動できる職員を育てていくためにも、今、市民サポートセンターを立ち上げ、熟成させていくことがベストな手法と考える。

審査の過程で3名の委員から、この議案に対する修正案が提出された。

内容は、サポートセンターについては、具体的内容を精査検討し、もう少し準備期間が必要であり、市民の理解を得てから進めるべきであるという理由から、市民サポートセンターに係る補正予算額として計上されている情報通信ネットワークシステム拠点追加設定業務委託料53万1千円、端末機増設に係る備品購入費(プリンター3台分)66万円、計119万1千円を削減し予備費へ措置

すべきという案である。この修正案に対して、次の討論があった。

◎反対討論  
活力ある仙北市を目指すためにも、また市民が望む施策を実施するためにも、市民サポートセンターは早めに設置しなければならぬ。

◎賛成討論  
ルールが定まらない中でサポートセンター設置は危険である。市民分権基本条例を制定する過程において、きちんと順番を踏んでから考えるべきである。

◎採決の結果  
賛成多数で修正案を可とし、関連する予算119万1千円を削減し予備費への措置を行い、一部修正の上、原案を可とすべきものと決定した。

## ■生保内財産区特別会計補正予算(第2号)

問 財産区の一般会計の繰出金において、受益者負担が伴う物と、今回の水路改修工事のように受

益者負担が伴わないものがある事は、住民からすれば不公平感があるのでないか。このことが前例になってはいけないのではないか。  
答 不公平感が生じないように、財産区の明確な繰出金の要綱を整備していく。

◎本案については賛成多数で原案を可とすべきものとした。  
(田口寿 記)



職員が現場へ出勤中(田沢湖地域センター)



# 教育民生常任委員会

教育民生常任委員会に

本会議より付託された議案は、7件である。

## ■仙北市病院事業管理者の給与及び旅費に関する条例制定について

**問** 病院事業管理者が医師である場合は、特殊勤務手当を支給することができ規定があるが、予定している支給額はいくらか。

**答** 今回、管理者となる宮川先生は医師であり、角館総合病院と田沢湖病院の外来診療を、それぞれ週1回手伝う予定である。現在、非常勤の先生が外来診療をした場合、1回につき5万円を支払っているが、管理者の特殊勤務手当については、外来診療1回分を4万円とし、週2回8万円の5週で40万円を予定している。

## ■仙北市居宅介護支援事業所条例の一部を改正する条例制定

**問** 現在5名いるケアマネージャーが、西木庁舎に移動となり居宅介護支援事業所は1箇所になるが、行動の範囲等を考慮した場合、現在のケアマネージャーの人数は妥当であるのか。

**答** 最近では民間事業所の開設も増えてきている。そこを連携を取れば1事業所、5名のケアマネージャーでも対応は可能であると考えている。民間事業所と調整を行っていききたい。

## ■仙北市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について

**問** 9月定例会の教育民生常任委員会において、角館総合病院の新築については、医療局が立ち上がった後、検討する旨の答弁があった。また、今定例会の一般質問で市長からは角館総合病院について平成26年の開業という説明があり、計画が前倒しとなった。その経緯

と、今の段階で決まっているスケジュールについて伺う。

**答** 現在、仙北組合病院が平成26年春の開業予定で計画され、この時期からあまり遅れない開業を目指したいことから、当初のマスタープランでは平成28年の予定であったが、平成26年度内の開業に計画を前倒しした。今後のスケジュールは来年1月に建設プロジェクトチームを立ち上げると共に、平成23年度の予定として用地選定から取得までを行い、設計業者、施工業者の選定まで進めたい。

## ■一般会計補正予算民生費について

**問** この度の国保調整交付金返還問題について、市長は自らの責任の果たし方として、期末手当を減額したが、その部分は国保特別会計へどのような形で反映されているのか。

**答** 減額した部分を国保特別会計に補填することについては、市長は寄付行為が出来ないため、違

法行為に当たらないよう、期末手当を減額するしかない判断をした。

## 教育費について

**問** 放課後児童クラブの開設時間帯について、大仙市と比較した場合に差がある。例えば長期休業時は本市が朝8時半から対し大仙市は7時から開いている。親の就労時間を考慮すると、8時半では預けにくい。この時間の差の問題で、大仙市に引越しをされた方もいると聞く。若者を引き止める、逆に呼び込む大胆な取り組みも必要と考えるが、開所時間を改正する予定はあるのか。

**答** 来年度に向けて利用時間の拡大を検討している。現在、長期休業中は、8時半から18時までであるが、これを1時間早めて7時半からとし、終わりを30分延ばして、18時半までを検討している。平日については始まり14時は変わらないが、終わりが合わせて18時半としたい。

## ■平成22年度仙北市病院事業会計補正予算(第4号)について

**問** 田沢湖病院の給食業務が民間委託となり数ヶ月経過したが、これまでの状況について伺う

**答** 委託当初は、味にバラつきがあった。管理栄養士が患者の聞き取り調査等をして対応し、現在は安定している。また、定期的に栄養サポート委員会を開催し、医師や管理栄養士、看護師の他に委託業者の栄養士も委員会に入り、協議し改善等に取り組んでいる。

◎教育民生常任委員会へ付託された議案7件は全て全会一致で可決された。

(高橋 記)



早期改築が検討されている市立角館総合病院





# 産業建設常任委員会

当委員会に付託された案件は議案11件、請願6件である。

## ■仙北市県営土地改良事業分担金徴収条例の一部を改正する条例制定について

審査の結果全会一致で可決

## ■平成22年度仙北市下水道事業特別会計への繰入額の変更について

審査の結果全会一致で可決

## ■平成22年度仙北市簡易水道事業特別会計への繰入額の変更について

審査の結果全会一致で可決

## ■平成22年度仙北市一般会計補正予算(第9号)

問 民生費にクリオンの燃料代が補正計上されている。

バイオマス施設から熱源が供給されない結果であるが木質バイオマス事業の計画を見直すのか。

答 ガス化炉がトラブルの原因ならば月島機械株式会社へ負担と責任を求めざるべきでないのか。

答 クリオンへの熱供給が計画通り行われず、ガス化炉の修繕・改修を実施した。

稼働状況を確認しているところでありこの結果を踏まえ、採算ベースに乗る手法を月島機械と協議検討し新年度予算前に委員会へ提示したい。

嵩んだ経費に対しては、市長が月島機械株式会社の取締役に「一定の責任を負ってもらおう」と強く申し入れていく。

◎質疑後の討論で賛成の立場で、当初計画通りの稼働状況にするため、納入業者共々対策を急ぐ必要がある。協議・検討を重ね一定の成果を得られるよう進めることの見解が付された。

た

## 6款1項5目農地費の土地改良総務費について

問 生保内財産区からの繰入金で田沢湖地域センターが発注する工事がなぜ発生したのか。

答 財産区土地貸付の際、隣接者等関係者と境界確認が甘くトラブルが発生し解消するためである。

◎質疑後の討論で賛成の立場で当該補正は、しっかり境界確認されていれば発生しない事案である。その他の各種権利等も十二分に確認の上、かかる問題が発生しないよう慎重に取り扱うことの見解が付された。

## 6目農業施設費の農林業者研修施設管理運営費について

問 市民サポートセンター設置準備のため白岩、中川、雲沢の集落センターを改修するための工事費であるが市民サポートセンターの理念は理解ができる。しかしワンストップサービスを実践するための業務量や人材配置等可能なのか。

改修してまで設置しなくても「市民側に立ち、市民目線で対応する職員を置く」ということならば既存組織で十分であり、現在の各庁舎から地域へ出向くに支障があるのか。

答 職員の減少や施設の老朽化のより、いずれは一体的な本庁舎の検討しなければならぬ時期に至った場合、本庁舎がどこであろうと地域的に遠いエリアができる。

そのエリアに市役所の顔としてサポートセンターを設置したい。

◎質疑後、現在の組織、機構の見直しのための条例の整備も含めあらゆる角度から検討を重ね、しっかりとした成果を示すためにもさらに議論を尽くす必要があるとの理由から、市民サポートセンター設置に伴う3施設の工事請負費315万8千円を減額し、予備費へ措置する修正案が3名の委員から提出された。

◎委員会では修正案を全会一致で可決し、原案を修正の上可と決定。

## ■平成22年度仙北市下水道事業特別会計補正予算(第2号)

道事業特別会計補正予算(第2号)

■平成22年度仙北市集落排水事業特別会計補正予算(第1号)

■平成22年度仙北市浄化槽事業特別会計補正予算(第2号)

■平成22年度仙北市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

■平成22年度仙北市温泉事業会計補正予算(第2号)

■平成22年度仙北市下水道事業会計補正予算(第2号)

■公の施設の指定管理者の指定について

審査の結果全会一致で可決

審査の結果全会一致で可決

■請願第1号請願書(雲然地区の水害予防措置について)

■請願第2号請願書(市道外日三市線側溝延長の請願書)

■請願第3号米価の大暴落に歯止めをかけるための請願

■請願第4号免税軽油制度の継続を求める請願

■請願第5号「湯野集落幹線用排水路の溢水による水害に係る」請願書

■請願第6号TPPの参加に反対する請願

全会一致で採択

(荒木田 記)



トラブル続きの木質バイオマス施設

# 用語解説

総務省の決算カードをインターネットで見ること

## 実質公債費比率

起債制限比率は普通会計に関する借金の負担割合の比率であるのに対し、実質公債比率では、これをベースに、下水道会計や公営企業会計などの起債のうち自治体一般会計が負担することになる部分を連結に近い手法で組み込むという連結的な指標となっている。

とができるので市町村の財政事情を見ることができるようになった。今回は決算カードに出てくる指標の解説をする。

18%以上は地方債の発行が許可制、25%超で一般事業の起債が制限される。

※仙北市平成20年度実質公債費比率19・8%  
21年度20・4%

秋田県市町村の中でワースト3。市では平成26年度までには実質公債費比率18以下になると予

測している。

この実質公債費比率は、自治体の財政をみていく上で大切な指標なのでもっと分かりやすく説明する。

〈例えば〉

サラリーマンの家庭の場合で毎月の会社からの給料に対して、車のローン返済額や副業で行っている農業用の機械のローン返済を考えると、

農業用の機械のローンは、通常農業収入を持って返済にあてると思うが足りない場合には会社から貰う給料も使うことに

なると思う。

車のローン返済額と、農業用機械のローン返済に持ち出した金額の合計が、給料に対してどれくらいあるかを見たものが、この実質公債費比率に似ている。

車などの生活にかかわるローンだけでなく、副業部分でもローンがある場合、それらも合わせて考えようとするものである。

（狐崎 記）

# 控室

昨年5月の市議会改選後から施行されている「仙北市議会基本条例」

これは、より市民に対して開かれた議会、またより市民参加を推進する議会を目指して作られたものですが、条文では、多くの市民が議会と市政

## インターネット議会中継の必要性

に関心が持てるように、こうした議会だよりの他にも、情報技術の発達を踏まえた様々な手段を活用し広報活動に努めることとされており。

さて、市議会の開催は、通常平日の10時からとなっておりですが、実際に傍聴されている方はごく少数です。平日10時ですと、大抵の方が勤務中でありまして、傍聴した

いと考えても、仕事を休むことになりまして難しいと思います。こうした仕組みからすると、どうしても市議会の活動が見えにくくなり、「議会って何をやっているの？」という疑問の声が多いのもまた現実です。

最近、スマートフォンやタブレット端末という言葉を聞く機会が増えておりますが、今や日常生活

活にインターネットは欠かせない時代となりました。仙北市議会には、まだインターネット議会中継のシステムはありません。条例の理念である「より開かれた議会」にするためにも、議会としてより多くの手段を利用しタイムリーに情報を公開していくことが必要不可欠です。

（高橋 記）

## 編集後記

昨年は国保の返還問題、集中豪雨、木質バイオマスのトラブル、雇用不足、TPPによる農家の不安、猛暑による稲作作況指数の低下などマイナスイメージの話題が多い1年だった。

この緊迫した課題の中で国保の生存は、ホットニュースとして伝えられた。観光客が毎年減少していく中でこの国保君が田沢湖や、仙北市への観光客の増加へとつながって欲しいと思う。国保君自身もあまり期

待されても迷惑だろうが日本の不景気に始まったこの地域の閉塞感を一気に吹き飛ばして欲しいという願いが込められている。

この編集後記を書いていく中でも児童養護施設にタイガーマスクの伊達直人名で全国から数々の善意が寄せられている。

まだまだ、日本人も捨てたものではないと意を強くし、今年には明るい話題がいっぱいの年であるように祈り、編集後記としたい。

（狐崎 記）

## 人事案件

●教育委員に河原田氏  
任期満了に伴う公認の教育委員の任命案を全会一致で同意した。

市教育委員5名の内、前教育委員の安藤満里氏が平成22年12月4日に任期満了により退職、後任に歯科医の河原田修氏（50）を任命することを全会一致で同意した。

●欠員の人權擁護委員に伊東氏  
欠員中の人權擁護委員に伊東和子氏（61）を任命する案に全会一致で同意した。

訂正とおわび  
第20号せんぼく市議会だよりで10ページに誤りがありました。  
誤「二校舎二校案」  
正「二校二校舎案」  
訂正してお詫び申し上げます。